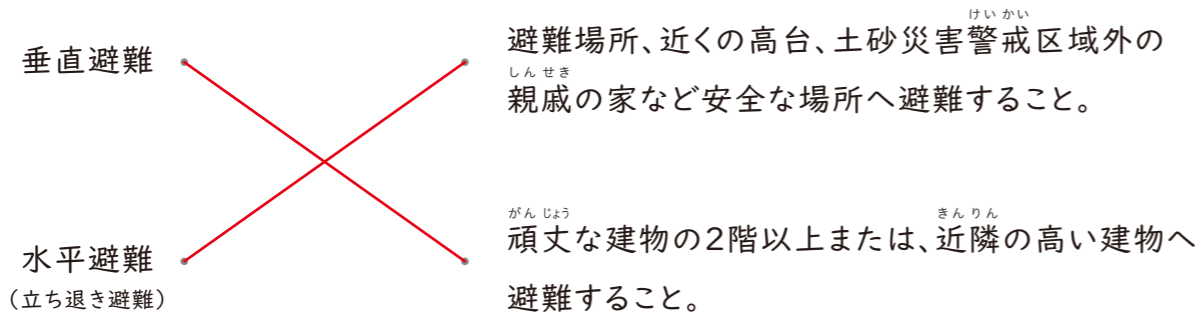


2章 - ④ マイ・タイムラインを作る

(1) 避難の種類について【組み合わせを線で結ぼう】



(2) 風水害で避難する時の注意点【()を埋めよう】

- 避難時の身支度 ※p.29「避難時の身支度」参照
 - ・ 雨の中を安全な場所へ避難する場合には、長靴だと歩きにくく脱げてしまうこともあるため、(スニーカー)にしましょう。 ※もしくは運動靴
- 冠水した場所は通らない
 - ・ 浸水の深さが(ひざ)の高さを超えると、(歩いて避難)することが困難になります。
 - ・ 水に流れがあると、水深が(浅くても)流されることがあるため、注意しましょう。
- 足元を確認しながら慎重に避難する
 - ・ 氾濫した水は茶色くにごっていて、(道路)の状況が分からないため、大変危険です。
 - ・ ふたの外れた(マンホール)や(そっこう)などに転落しないように注意しましょう。

(3) マイ・タイムラインを作ろう

警戒レベル	1 災害への心構えを高める	2 自らの避難行動を確認	3 危険な場所から高齢者等は避難	4 危険な場所から全員避難	5 命の危険 ただちに安全確保
行政からの情報等		自主避難などの注意の呼びかけ	高齢者等避難	避難指示	緊急安全確保
警戒レベル相当情報 気象庁 防災気象情報を発表	早期注意情報	大雨注意報・洪水注意報等	氾濫警戒情報 大雨警報・洪水警報等	氾濫危険情報 土砂災害警戒情報等	大雨特別警報等
避難行動	・天気予報を確認する ・テレビなどで情報収集をする ・家の点検や補強をする ・非常用持ち出し袋の中身を確認する ・避難をする相手先と連絡をとる ※行政が開設する避難場所だけでなく、安全な親戚や友人宅も避難場所としておく。	・避難準備を開始する ・避難に要する時間を確認する ※暗くなると周りの状況が把握しにくくなるため、明るいうちに避難する。 ・ハザードマップで安全な避難経路を再度確認する ・備蓄品が水没しないように安全な場所に置く	・区HPや防災情報Eメールを活用し避難場所、開設状況を確認する。 ※祖父母や幼い妹弟がいる、また避難に時間がかかる方がいる場合、警戒レベル3で避難を開始する。 ※警戒レベル3では、災害の状況によって避難場所が開設されていないことがあるため、各自でどこに避難することが適切か判断する必要がある。そのためには、事前に住んでいる地域の特徴や避難先を考えておくことが大切である。	・避難を開始する ※必ずしも地震の際の避難所である地域防災拠点(小・中学校)が開設されるわけではない。 ※地区センター、自治会町内会館等が開設される場合がある。	● 避難場所にいる場合 安全が確認できるまで待機する ● 家にいる場合 家の中の安全な場所へ避難する

※上記の例文はガイドに記載されていない内容もございます。あくまで一例となります。

(4) 今日の学習で気付いたこと、学んだことを書こう

(記載例) 避難方法が複数あることや、氾濫した水は茶色くにごっていて道路の状況がわからないため、避難が難しいことを知りました。

また、自分の住んでいる地域のハザードマップを見ることで、改めて危機意識を持つことができました。

風水害が起きたときは、今日作ったマイ・タイムラインをもとに落ち着いて避難行動を取ろうと思います。



よこはま
横浜市の
マイ・タイムライン作成シート
を参考にしよう